

市政概要報告要旨

(令和五年十一月二十八日)

令和五年十二月定例会市議会にあたり、市政の概要について申し上げます。

地域経済・市民生活の下支えについて

燃油をはじめとしたエネルギーや原材料等の価格高騰の影響が続いていることから、国の交付金などを活用しながら支援を行っています。全市民に向けて配布した「さかいみなと応援券」は、今月十四日現在、約六十%の利用がありました。

また、事業者に向けては、昨年度に引き続き、エネルギー・原材料価格高騰対策にかかる制度融資を利用した際の利子相当額を最大三年間、全額助成しており、先月末現在で、十九件、合計で一億九千万円余の融資が実行されております。

価格高騰による影響が特に大きい世帯に向けては、先月末時点で、住民税非課税世帯などに対し、一世帯あたり三万円の給付を三千六百九十八世帯に、児童扶養手当受給世帯などの子育て世帯に対し、児童一人あたり五万円の給付を八百三十四人分・四百七十五世帯に行いました。

そのほか、生活保護受給世帯や児童扶養手当受給世帯などに対し、光熱費等の補助を行っており、四月に六百十七世帯、七月に六百三十一世帯に、一世帯あたり一万七千円を、先月には六百二十八世帯に一世帯あたり一万五千円を給付しております。

引き続き、関係機関と連携しながら地域経済や市民生活を下支えしてまいります。

市民の健康づくり、健康寿命の延伸について

新型コロナワクチンにつきましては、九月二十日から、初回接種を終えた生後六か月以上の全ての方を対象に、「令和五年秋開始接種」を実施しております。これまでの三年間、年末年始に向けて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が確認されています。市民の皆様におかれましては、今一度、手洗い・うがい・マスクなどの感染防止対策を徹底するとともに、ワクチン接種について、ご検討いただきますようお願いいたします。

季節性インフルエンザにつきましては、本年は、例年に比べ早く流行しており、ホームページ等で感染防止対策を周知しています。また、あわせて、妊産婦、心臓・呼吸器・免疫等に重度の障がいがある方、就学前までの乳幼児及び六十五歳以上の高齢者など、インフルエンザ予防接種費用助成の対象となる方に、先月、クーポン券を発送し、早めのワクチン接種を呼び掛けているところであります。

本年度開始した加齢性難聴者への補聴器購入費助成につきましては、先月末現在で五十二件の申請をいただいております。

事業効果を検証するために実施した利用者アンケートでは、「会話がスムーズになった」「地域の活動に参加するようになった」などの喜びの声を多数いただきました。

また、九月には、山陰言語聴覚士協会のご協力のもと、日常生活の状況などを聞き取りながら「聞こえ」のチェックを行う相談会を開催しました。今後も「聞こえ」に関する講演会を開催するなど、制度の周知やフォロー体制の充実を図ってまいります。

本年度、改定を予定している「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」につきましては、八月と先月に策定委員会を開催し、第八期計画の分析、地域課題の抽出をしたところであります。来月下旬には、三回目の策定委員会を予定しており、委員の皆様にご意見を伺い、次期介護保険料等の素案をお示しし、ご意見をいただくこととしています。

策定委員会のご意見を踏まえた素案について、パブリックコメントを行い、計画策定してまいります。

子育て支援について

ゼロ歳から就学前までの一貫保育の実現に向けた公立保育園のリニューアルにつきましては、なかはま保育園では、空調・トイレ・調理室の改修が完了し、現在、乳児室の増築を行っております。あがりみち保育園では、空調の改修が完了し、現在、トイレの改修を行っています。いずれも、順調に工事が進んでおり、年度内の完了を予定しております。

新築となるわたり保育園については、実施設計を行っているところであり、医療的ケア児への対応のほか、省エネと創エネによる建物のゼロエネルギーを目指すゼブ化についての検討を進めております。

共生社会の実現について

令和六年度から令和十年度までを計画期間とする「第四次境港市男女共同参画推進計画」を今月、策定しました。

第四次計画は、性別にかかわらず誰もがあらゆる分野に参画できる社会を実現するため、計画の名称を「さかいみなと みんなと参画プラン」に改めたほか、ジェンダー平等の実現や性の多様性を前提とした社会システムの構築、出産・育児等に関する支援の充実など、より幅広い視点に立った内容としました。また、本計画による効果を確認するための指標として、「審議会等委員の女性の割合」や「男性の育児休業取得率」などに数値目標を新たに設定するなど、実効性を高める計画としております。

本計画に基づき、男女の固定的な役割分担意識を変えるための啓発、育児・介護をしながらでも働きやすい職場づくりやワークライフバランスの実現に取り組んでまいります。

「境港市障がい児者プラン」の改定につきましては、七月と先月に策定・評価委員会を開催し、現計画の進捗状況などの検証、障がい福祉サービスの見込み量や目標値の設定、障害福祉施策の基本的方向性などについて協議するとともに、国の指針に基づき、地域で連携し、強度行動障がいがある方への支援体制を整備するための検討等を行っています。

今後は、障がい福祉サービス事業所や障がい者の方々との意見交換を踏まえた素案を作成し、パブリックコメントを経て、本年度中に策定してまいります。

本年、本市と中国・琿春市は、友好都市提携三十周年を迎えました。七月に実施した高校生同士のオンライン交流に続き、先月には、みなとテラスにおいて、両市の交流を紹介する写真や動画を展示する記念写真展を開催し、多くの市民の皆様にご覧いただきました。

なお、記念式典については、先月九日に琿春市代表団をお迎えし、開催する予定でしたが、急遽、来日を取り止めとなり、今月二十二日にオンラインで開催しました。式典では、琿春市長をはじめ両市の行政関係者に加え、交流を支えてきた企業や市民の方々、これまでの交流の歴史を振り返るとともに、今後のさらなる交流促進を誓い、相互発展を願ったところであります。

観光振興について

水木しげるロードにつきましては、八月に入込客数が百万人を突破した後も好調に推移し、先月末までの入込み客数は、百二十六万人、対前年比 百五十%でありました。

水木しげるロード三十周年を記念したイベントについては、先月二十日から、大手飲食チェーン店のセットメニューに付く「水木しげるの妖怪ずかん」を本市観光案内所に持参された方に、「ゲゲゲの鬼太郎」と「悪魔くん」のオリジナルステッカーをプレゼントする誘客キャンペーンを実施しています。また、来年一月には俳優などをゲストに招き、水木しげる先生の作品の朗読、トークショーを開催する予定としております。

今月九日には、新作アニメ「悪魔くん」が全世界に向けオンデマンド配信され、十七日には、映画「鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎」が公開となりました。

都市部の映画館では、水木しげるロードを紹介する動画を作品が始まる前に流すほか、広島駅や岡山駅、倉敷駅などでは、デジタルサイネージやポスターの掲示を行うなど、映画作品と連携した観光プロモーションを実施し、水木しげるロードへの誘客を図るとともに、来年四月の水木しげる記念館のリニューアルオープンに向けたPRを展開しております。

水木しげる記念館の再整備につきましては、順調に工事が進み、一月末には建物が完成する予定であり、展示業務については、実施設計を終え、今月から、展示物の製作が始まっております。

また、今月十三日に指定管理候補者選定委員会を開催し、水木プロダクションなど三社で構成する「一般社団法人水木しげる記念館管理運営共同事業体」を指定管理候補者として選定しました。

クルーズ客船につきましては、三年四か月ぶりに国際クルーズも再開し、今月二十三日が最終寄港となり、二十八回、約三万三千人の方が本市を訪れました。境夢みなとターミナルの利活用もようやく本格化するとともに、市内に外国人観光客の姿も増え、賑わいが戻ってまいりました。

また、今月二十三日のダイヤモンドプリンセスの寄港の際には、境港総合技術高等学校の生徒が実習品販売の店を開き、英語で接客を行うなど、外国からのお客様と交流を深めました。

米子鬼太郎空港につきましては、先月二十五日、米子ソウル国際定期便の運航が四年ぶりに再開されました。初便の到着に合わせ、鳥取県知事らとともに韓国からの乗客をお出迎えしたほか、日韓両国の官民の関係者で開催した記念セレモニーでは、運航再開を祝うとともに、航路の発展や日韓交流の促進について、お互い確認したところであります。

また、来月には来年二月までの季節限定ではありますが、米子香港便の定期運航を控えており、通年の定期運航に繋がるよう、利用促進を図ることとしております。

引き続き、鳥取県や境港管理組合、中海・宍道湖・大山圏域観光局など、関係機関とともに、国内外からの誘客促進に取り組んでまいります。

水産業の振興について

境漁港の先月末までの水揚量は、十一万一千トン余で前年比約百十七%、水揚金額は二百二億五千万円余で前年比約百二十一%と、サバ、マイワシの豊漁などにより、十万トンと二百億円をそれぞれ突破しました。

先月八日には、四年ぶりとなる「水産まつり」が、高度衛生管理型市場となって初めて二号上屋とその周辺を会場に開催され、約二万人の来場者で賑わいました。新鮮な水産物や水産加工品の販売に加え、ステージでは、マグロ解体ショーやセリ体験など、多彩な催しが行われました。また、特定第三種漁港指定五十周年の節目を記念する写真展も行われ、目覚ましい変貌を遂げた港を多くの方々に実感していただきました。

Sea級グルメ全国大会につきましては、先月、静岡県沼津市におきまして本年度の大会が開催され、私も参加してまいりました。

沼津大会には、全国の港から過去最大となる三十三のグルメが集結し、二日間の大会期間中は、十二万人を超える来場者で賑わっていました。

本市からは、「NPO法人元気みなと」が「境港海鮮いぶし丼」を出品され、用意された千二百食が完売となり、境港の海産物・加工品の素晴らしさを、多くの方に知っていただけたと感じております。

来年十一月の境港大会は、沼津大会も参考にしながら、賑やかな大会になるよう、実行委員会でしっかりと議論を重ねながら、準備してまいります。

農業の振興について

弓浜干拓地の営農基盤の強化に向けては、中海干拓地営農組合等が行っている輪作営農や、排水改善・耕作条件改善などの取り組みに対して、引き続き支援を行っており、本年度は、石礫の除去を行うためのストーンピッカーや農地を均し表面排水を向上させるためのレーザーレベラーの導入のほか、地下深くに根が伸びる緑肥栽培により、排水の向上及び土壌改良に取り組んでおります。

また、本市の基幹作物である白ねぎにつきましては、八月に、米子市と共同で「弓浜地区白ねぎ産地の生産振興プラン」の基本計画を策定しました。西日本一の白ねぎ生産地を目指し、生産者の確保や、生産の効率化、品質・ブランド力・販売価格の向上に取り組むこととしています。現在、生産者と鳥取県などと協議を重ね、共同選果場の施設整備や機械導入の支援、新規就農者に向けた研修制度の充実など、具体的な取り組みを盛り込んだ実施計画を本年度中に作成する予定としております。

圏域の連携について

中海及び宍道湖の周囲を8の字状に結ぶ高規格道路網の整備推進につきましては、先月三日、「中海・宍道湖8の字ルート整備推進会議」並びに鳥取・島根両県とともに、「中海・宍道湖8の字ルートに関する要望・意見交換会」を開催し、その中で、森内閣総理大臣補佐官へ中海・宍道湖8の字ルートの整備推進を強く要望しました。

また、今月十四日及び十五日には、国土交通省、地元選出国會議員に対して整備推進の要望を行ったところであります。

米子・境港間の高規格道路の早期事業化に向けた取り組みにつきましては、今月十三日、鳥取県や関係自治体、議会、経済界などが一堂に会し、中国横断自動車道岡山米子線（蒜山IC～境港間）の整備促進に関する総決起大会を開催しました。

大会では、「蒜山・米子間の四車線化の早期実現」とともに「米子・境港間を結ぶ高規格道路の早期事業化」を国に要望することを決議し、鳥取県知事と関係自治体の首長が、国に対し直接要望を行ったところであります。

学校教育・社会教育について

学校活動につきましては、ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制限を受けてきましたが、本年度は、改めて人と関わることを大切にしながら学校行事等を行っております。

学習の基盤となる言語能力の育成に向け、八月に全国でも著名な国語科と英語科の講師を招き、教職員を対象にした「ことばの力を育む研修会」を開催したほか、今月から、小学校一、二年生がALTと英語でのコミュニケーションを楽しむ体験学習「クリスマスキャラバン」を実施しています。

引き続き、教職員の指導力向上に努めるとともに、子どもたちが外国語等を楽しく学習できる教育環境づくりに取り組み、子ども達の豊かなことばの力を育てまいります。

小学校トイレの改修につきましては、洋式化や床面のドライ化、みんなのトイレの設置などを盛り込んだ基本設計が完了したところであり、引き続き、子どもたちが気持ちよく使えるトイレを目指し、実施設計・改修工事に取り組んでまいります。

社会教育環境の充実の一環として、来月十四日、移動図書館車の運用を開始します。この移動図書館車は、本市にゆかりのある方の親族からの寄附金を活用し、整備するもので、約五百冊の図書を収納・運搬できる書架を備えております。

交通手段がないなど様々な理由で、普段、図書館に行くことができない方に、本を読んだり、借りたりできる機会を提供するほか、図書館司書が直接出向くことで、より多くの皆様に図書館のことやその取り組みを知っていただき、図書館の利用促進にもつなげたいと考えております。

環境対策について

脱炭素社会の実現に向けた取り組みにつきましては、「境港ブルーカーボン調査研究事業」において、ブルーカーボンのクレジット化に向けた可能性を検討しており、本年度中に、調査研究の成果を取りまとめ、今後の取り組みについての方向性を定めたいと考えています。

また、市内全域の温室効果ガスの排出削減を推進するため、「温室効果ガス排出削減実行計画（区域施策編）」の策定作業を進めており、本年度中には完成する予定としております。

海や海辺の環境を守る取り組みにつきましては、従来から行っているビーチクリーナーでの清掃に加え、本年度から、砂浜の緑地部分のごみやマイクロプラスチックの回収作業を障がい者就労支援事業所に委託し実施しています。これまで二つの事業所で、計二十三回、延べ百二十八人の作業で九十九kgのごみを回収しました。

また、先月十五日には、「シーサイドクリーンアップ弓ヶ浜」を開催しました。この事業は、令和三年度から米子市と共同で行っており、本年度は本市新屋町海岸で開催し、親子連れや各種団体など、二百七十三人の方にご参加いただきました。当日は、海岸の清掃をした後、きれいになった砂浜で「サンドアート（砂像づくり）」を行い、参加者には、砂浜に親しむとともに、美保湾や弓ヶ浜への愛着を深めていただきました。

循環型社会の推進に向けた取り組みにつきましては、生ごみ堆肥化容器（コンポスト）の購入費の補助を開始しました。今月十四日現在、二十三件の申請をいただくなど、大変好調な状況で、リサイクルに対する市民の関心の高さを改めて感じております。

また、食品ロスの削減や生ごみの減量化に関する冊子「生ごみダイエット」を作成し、今月発行の市報で折り込み配布しました。あわせて、生ごみのリサイクルを手軽に体験していただける、ダンボールコンポストの無料配布を行い、わずか三日間で予定していた数量に達したことから、さらに追加配布を行ったところであります。

引き続き、市報や出前講座の開催などを通して、市民への普及啓発を行い、さらなるごみの減量化を図ってまいります。

快適な生活環境づくりについて

道路等の整備につきましては、通学路安全対策として、渡小学校周辺を時速三十キロの速度規制区域とする「ゾーン三十」の整備や渡漁港埋立地内の内水排除施設が完成しました。その他、境地区等での側溝改修や昭和町の舗装修繕などについては、年度内の完成に向け鋭意工事を進めております。

公園整備につきましては、今月、境港駅前公園の隣接地に整備する「（仮称）妖怪ふれあい広場」の工事に着手しており、年度内の完成を見込んでおります。

また、令和六年度のリニューアルオープンを予定している境中央公園及び令和七年度のオープンを予定している竜ヶ山公園周辺エリアの屋根付き広場については、地域の皆様のご意見を伺いながら、設計を進めているところであります。

危険ブロック塀の撤去への補助につきましては、これまでの一敷地単位での申請を、独立した塀ごとの申請に改め、補助上限額を増額するなど、拡充を行いました。

あわせて、固定資産税の納税通知書に補助制度のお知らせを同封した効果もあり、多くの方々にご活用いただいております。

なお、通学路沿いの危険ブロック塀については、これまで解消した二十一件に加え、本年度二件が解消され、残る八件についても、引き続き、解消に向けた交渉を継続してまいります。

防災対策について

昨年度、鳥取県西部地震が発生した十月六日を「境港市家族防災会議の日」と定め、防災意識の向上を図ることとしました。

家族防災会議の日を間近に控えた先月一日、防災対応拠点でもある、みなとテラスを会場に、「さかいみなと消防・防災フェア」を初めて開催しました。消防・自衛隊・警察等の車両の展示、航空自衛隊美保基地による防災食「美保基地カレー」の提供、地域防災について先駆的に取り組んでいる竹内町自治会による講演のほか、境港市家族防災会議の日コーナーの設置など多彩なイベントを通じ、当日参加された約三千人の方に防災について学んでいただきました。また、消防団による腕用ポンプ車の実演や水消火器体験、PR動画の上映を通じて、地域防災力の中核となる消防団を知っていただく良い機会となりました。

家族防災会議の日の当日には、防災行政無線等で広く市民の皆様にお知らせをするとともに、幼稚園や小学校等におけるシェイクアウト訓練、保育園における防災食の体験等、防災について、家庭や地域、職場等で話し合ってもらうきっかけとなるよう取り組みました。

引き続き、一人ひとりが防災を自分事として捉え、防災意識の向上に繋がるよう、普及啓発に努めてまいります。

原子力防災について

八月八日、安全協定に基づき、中国電力から、島根原子力発電所一号機の廃止措置計画の変更に関する事前報告を受けました。

これを受け、鳥取県及び米子市とともに鳥取県原子力安全対策合同会議を開催し、中国電力及び鳥取県原子力安全顧問からの説明や意見等を聞くとともに、議会の意見や住民説明会での意見等を踏まえ、「廃止措置終了時期の変更を含む全体計画」並びに「四段階からなる全体計画のうち原子炉本体周辺設備等解体撤去期間である第二段階」に限り了解することとしました。

中国電力に対しては、住民の安全確保及び環境の保全を図ることを最優先事項としながらも、速やかに廃炉作業を終えることなどの意見を付し、先月十三日、鳥取県知事、米子市長とともに、事前報告に対する回答を行いました。

あわせて、国に対しては、「本市が求めたことが確実に履行されるよう中国電力を指導すること」や「原子力防災対策にかかる費用について、国が責任をもって財源措置をすること」等を、強く要望しました。さらに、「中国電力に対して本市が回答した内容」と「国に対して要望した内容」を、島根県に伝え、島根県が中国電力へ回答する際には、十分配慮していただくようお願いしました。

また、九月二十二日には、島根原子力発電所二号機で使用する新燃料が発電所に搬入されるにあたり、鳥取県の立入調査に同行し、安全上異常がないことを確認しております。引き続き、島根原子力発電所の動向に注視し、市民の皆様の安全・安心の確保に努めてまいります。

原子力防災訓練につきましては、地震による自然災害と原子力発電所事故との複合災害を想定した訓練として、先月十九日には、災害対策本部の運営訓練を、今日には、住民避難訓練を、それぞれ、山陰両県及び六市で実施しました。

住民避難訓練では、渡地区・外江地区を中心として八十六人にご参加いただき、原子力災害時の一時移転先である鳥取市内の学校までバスや自家用車による避難などを体験していただきました。今後、当日の訓練で明らかとなった課題を解決し、広域住民避難計画の実効性を高めてまいりたいと考えております。

DXの推進について

「境港市DX推進計画」の基本方針である「書かない窓口」「迷わない窓口」の実現に向け、九月に「窓口体験調査」を行いました。「転入時」「死亡時」「証明書取得時」の三つの想定で住民役となった職員が、実際に一連の手続きを体験することで、市役所に来られた方が「何を見て、どう思い、どのように行動するのか」を検証し、課題や改善点を洗い出しました。

「最初にどこに行けばいいかわからない」「書類の書き方が分かりにくい」「同じ情報を何度も書くことがある」など、この調査で浮き彫りとなった課題等について、案内表示の工夫や様式の見直し、システムの導入などの改善策を検討しているところであります。

庁内事務処理のデジタル化につきましては、本年一月、マイナンバーカードを使用した子育てや介護の申請と基幹業務システムを連携するため、RPAを導入しました。さらに、固定資産税の業務においてもRPAの活用を開始しており、現在、さらなる活用を検討しているところであります。

引き続き、デジタル技術の活用により、市民サービスの向上と業務の効率化を図ってまいります。

令和五年度の財政見通しと令和六年度予算編成方針について

本年度の財政見通しにつきましては、一般財源の柱である市税収入と地方交付税に加え、国・県支出金などの特定財源についても、概ね当初予算額を確保できるものと見込んでおります。

本市の財政状況は、これまで、徹底した行財政改革に取り組み、規律ある財政運営を堅持してきた結果、一定の財政健全化が図られております。

しかしながら、本市の抱える課題である土地開発公社の負債解消、市庁舎及び小中学校校舎の建替え等の施設整備への備え、増大する社会保障関係経費、市民サービスの維持・向上などに対応していく必要があることを勘案すると、未だ楽観できる状況ではありません。

こうした中、来年度の予算編成につきましては、一層規律ある財政運営に徹しながら、「良いもの」は継続・発展させ、「変えるべきもの」はスピード感を持って大胆に変える考えのもと、行ってまいります。

以上、市政の概要についてご報告申し上げましたが、議員並びに市民各位の格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。